

■落語+エンディングノート講演例

- ・相続、家族をテーマの創作落語「天国からの手紙」
- ・エンディングノートは遺言書の代わりになる？
- ・エンディングノートに記しておきたい項目
- ・遺言書とは別に「想いを遺す」ツールとして
- ・自分らしくより良く生きるための活用術 など
(必要に応じ、成年後見制度の説明も可)



■落語+遺言知識セミナー例

- ・相続、家族をテーマの創作落語「天国からの手紙」
- ・相続人はだれ？法定相続分について
- ・遺留分とは？
- ・自筆証書遺言と公正証書遺言の違い
- ・遺言書とは別に想いを遺すツール「エンディングノート」



■笑(工)ンディングノートとは

エンディングノートは、自分が死んだあとの段取りを書くものと思われがちですが、決してそうではありません。エンディングノートは、人生を振り返り、自分の人生と向き合って、そして人生のゴールも含めて、自分らしくより良く「生きる」ために活用するものです。

私は不妊治療を経験しました。そのことで、「いのち」とは？この世に生を授かるってどういうことなのか？と深く考えるようになりました。

人間は最初0.1ミリの受精卵から始まるのです。その0.1ミリの受精卵が細胞分裂を繰り返し、赤ちゃんとして生まれてくるときには30兆個の細胞を持って生まれてくると言われています。そのことを知ったとき、この世に生を授かるってそれだけすごいことなんじゃないか、「せっかく授かった命」だからこそ、大切にしたい、そう思うようになりました。

社会生活を送るなかで、お金のこと、仕事のこと、家族のこと、人間関係についてなど、現実問題の対処ももちろん必要です。

でも、そろそろ自分自身に目を向け、自分にしか経験できない人生、自分にとって本当に大事なものは？この世に生まれてきた意味は？悔いのない人生とは？エンディングノートをきっかけにそんなことも考えてみませんか？

■落語で楽しく学ぶ相続・遺言「天国からの手紙」

落語内容

息子二人、娘一人が見守る中、病室にて母があの世界へ。

母は天国へ行き、天国への案内人と出会い、遺産が不動産のみで相続人が複数いると必ず相続争いがあることを聞く。そして、ペットの世話をお願いしている向かいの良子さんに財産を遺したいときは遺言書が必要なことを教えてもらう。天国への案内人の指導のもと遺言書を作成し、天国への案内人のすすめで同時に息子、娘にあてた手紙もしたためる。遺言書と手紙を病室に置いてきて、またすぐに天国に戻り、天国から息子・娘の様子を見守る母。最初は言い争いをしていた子どもたちも、母からの手紙を読んで改心。相続問題も一段落し三途の川を渡ろうとする母、そのとき大事なことを思い出す…。